

## 当期の概況

当期におけるわが国経済は、金融システムの不安や株価の下落に加え、自動車産業への設備投資が回復したものの、経済活動全般は景気回復の展望が開けないまま低調に推移いたしました。海外ではヨーロッパ市場の低迷に加え、アメリカ市場に回復の兆しが見えたもののその回復力は弱く、株安、雇用環境改善の遅れ等、個人消費の伸び悩みから景気の先行きに不透明感は拭い切れない状況で推移いたしました。

当社の所属する日本機械鋸刃物工業会では前年比 96.2%の生産実績に止まり、3年連続の減少でありました。また、当社の業界に少なからず影響する住宅着工件数は1,145千戸で3年連続の減少でありました。

天龍製鋸(中国)有限公司とTENRYU AEMRICA INC.の寄与がありましたものの、3年連続で減少した住宅産業の低迷に始まる各産業の低調の影響を受け、国内販売が振るわず昨年を下回る販売実績となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績の売上高は7,520百万円(前期比1.5%減)、経常利益は936百万円(前期比12.5%減)、当期純利益は544百万円(前期比11.2%減)の減収減益となりました。